

水から見た日本文明史と世界の水問題

水循環・まちづくりグループ 研究員 立田潤一郎

1. 本書の概要

古来から、文明の興亡に大きな影響を及ぼし、争乱の火種となってきたのは、食料に加えて、資源やエネルギーである。いうまでもなく、水は食料生産の必須要素であり、文明に欠くべからざるものである。そこで本書第一部では、日本文明の興亡史及び現代の争乱、水力発電の誕生などを、水資源やエネルギー問題の視点から描写していく。例えば、奈良盆地からの遷都、関東平野での開府の経緯として、資源という切り口は説得力に富む。

また、水資源に関わる諸問題は、各国、各地域で同様ではなく、気候や立地という自然的条件だけでなく、経済成長ステージ、インフラ整備など経済開発的な条件により、顕在化する事象が異なる。そこで、本書第二部では、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアにおいて、私共が関わった幾つかの国を取り上げ、各国の立地特性、政治経済事情を踏まえた後、水資源上の問題や課題を取りまとめたものである。

2. 本書の構成

第1部 水とエネルギーから見た日本文明史

- ・文明の下部構造
- ・日本文明の誕生
- ・京都盆地への遷都
- ・鎌倉での閉じこもり
- ・戦国へ
- ・関東地方のエネルギー
- ・徳川幕府の全国エネルギー覇権
- ・江戸の発展
- ・江戸文明の衰退
- ・広重が描いた日本文明の衰退
- ・黒船に救われた日本文明
- ・近代日本のエネルギーの夜明け前
- ・水力発電を誕生させた京都
- ・植民地化からのがれた日本
- ・ベルが見た水力エネルギーの宝庫・日本列島
- ・近代化への動力としての水力発電
- ・動力革命
- ・膨張する文明
- ・第二次の動力革命
- ・石油の世紀の幕開け
- ・石油へ向かう帝国たちと取り残される日本

- ・米国の石油の覇権
- ・石油の戦争
- ・原子力の登場
- ・水素
- ・エネルギーを生み出す未来都市
- ・省エネルギーと日本人の価値観
- ・太陽光発電の弱点
- ・太陽に育まれた水力エネルギー
- ・災害列島とエネルギー
- ・エネルギーの進化
- ・重力エネルギーの都市
- ・未来の水力増強
- ・頂点で未来を望む

第2部 現代における各国の政治経済と水問題

- ・サウディアラビア編
- ・シンガポール編
- ・台湾編
- ・フィリピン編
- ・インドネシア編
- ・タイ編
- ・ベトナム編
- ・ミャンマー編
- ・ネパール編
- ・トルコ編



編集・発行 公益財団法人 リバーフロント研究所
本書は、宝くじの社会貢献活動の一環として産成を受け作成されたものです。

発行	公益財団法人リバーフロント研究所
執筆・編集	竹村公太郎（第1部）、立田潤一郎（第2部）
発刊年	2013年2月
出版社	共立出版
発行部数	一万部
配布先	全国の大学図書館及び公立図書館など

本書は、財団法人日本宝くじ協会による宝くじ基金助成事業により作成した。